

2016年4月18日

熊本地震について少し感ずるところを記しておこう。この地震は九州の中央部を横切る断層帯で起きた地震であり、どれが本震、どれが前震で、どれが余震などと言っているものではないものであると思う。最初に起こった地震で断層帯の歪が変化し、断層帯に沿って力が変化したために起こるのであって、すべてが本心であると思ったほうがいい。気象等では過去に例がない地震だといっているが、このようなことは、素人でも断層帯を力の変化が伝わり、断層が通る地域に震源が拡大してもおかしくないと感じる。視聴者を心配させないための気象庁の方便だとも思うが、かえって問題だ。余震などというから1回目の地震の後、まだ健在な家に必需品を取りに行ったかたがたが2度目の強い地震で家の下敷きになってしまった例が多いのではないかと思う。余震ではなく本震が拡大するから気をつけろといったほうがよっぽど注意が図られたのではないかと思う。それでも家に物を取りに戻る人はいただろうけど！この地震でやはり重要なのは歪が安定状態になるまで、破戒しやすい地層の断層帯にさらに広がることを見たほうがいいと思う。特にこの断層帯野南には川内原発があり、今のところ震度が小さいから運転中だそうで停止させるつもりはないらしい。しかしながら先に述べたように余震などというのではなく、震源が川内原発直下、あるいは近くで起こってもおかしくない状況にあると思う。このことからしても原発をすぐに停止させるべきだと考える。ここの状況で稼働させるなど狂気の沙汰である。また面子にこだわっているのだろうが！ただ原発は停止させたからといって安全ではない。燃料棒が原発に残されたままなので原発が破壊されれば放射性物質がやはり飛び散る。九州の断層帯は日本の大断層帯である中央構造線の南端に位置している。このため地震活動はこの断層帯にそって拡大してもおかしくない。大分県に震源が移っていったのもこの断層帯に沿っている。今後歪の力が安定状態になるまで、震源が拡大するものと思われ、四国、果ては関西、長野県まで拡大するかもしれない。力の伝達はほぼ瞬時に伝わるため、中央構造線のどこで地震が起こってもおかしくない。四国で気になるのはやはり中央構想線の直上にある伊方原発だ。この原発はまだ停止中であるものの燃料棒は原発内か近くのプールに保管されているはずだ。しかも絶えず冷却しながら。このため停止中の原発であっても冷却が泊まる程度の地震で臨界状態になり、破壊されれば放射能をばら撒く。原発というものは稼働しようが、停止しようが、問題が起これば結果はほぼ同じになる。川内原発にしても伊方原発にしても放射能漏れが起きれば、せっかく福島原発から離れていて、放射性物質が比較的になかった関西地区もほぼ壊滅である。今回の地震を関係者は甘く見ているのではないか！というより何らかの利権がらみで、こうして報道をさせない状況にあるのではないかと思う。九州はこの断層帯だけでなく他の断層も要注意である。断層に掛かっている力が変化したので、九州全土の弱い断層はいつ破壊してもおかしくない状態になっている。うまく力が緩和されればよいが要注意である。博多にも限界原発があり、これもまた問題である。いずれにしても原発は即刻廃炉にすべきであり、燃料棒を水冷しなくても問題ない状態に粉砕して臨界の起こらない状態にすべきと考える。原発をベース電源にしてはいけない。ともかく今後注意すべきはどこまで震源域が拡大するかであり、人為的にとめられない以上、何とか地殻の歪が解消するように祈るばかりである。